

対話を通した教育



学校長 柴田 義晴

今年一年を振り返ってみると、わが国のみならず世界中で天変地変と
言うのか、極寒、酷暑、大雨、巨大台風、巨大竜巻……が、多くの人々
の命を奪ってしまいました。もっと地球をやさしくしなければなら
ないのではないか、と思わざるを得ない年でもありました。「天は自
ら助くる者を助く」ということわざが示すように、地球にやさしいエ
ネルギー開発や人間行動の取捨選択（省エネ、節電、省無駄等）の努力をすれば、必
ずやこの地球は回復し、これまでのように将来にわたって（子孫に）自然の恩恵を与
えてくれるのではないのでしょうか。

ところで、年明け1月25日（土）、本校では全国公開研究会を開催致します。その
際には、多くの保護者の皆さまにご支援、ご協力頂くこととなりますが、どうぞよろ
しくお願い致します。研究主題は、『「グローバル社会に生きる力」を育む』ですが、
副題の一つに『対話を通した異文化間教育』を上げています。この「対話を通した」
点に着目して「言葉が時間を生む」ことについて考えてみたいと思います。時間の誕生
は、日常のいま（現在）、さっき（過去）、こんど（将来）という表現を言葉にした
ことに始まると言われています。「さっき」は「きのう、おととい、さきおととい…、
むかし」を生み出し、「こんど」は「あした、あさって、しらさって（しあさって）…、
しょうらい」を生み出したのです。それによって、歴史が作られ、計画が作られるよ
うになりました。他の動物は、「いま（現在）」しかない世界に生きています。仮に進
化した動物でも、「さっき」や「こんど」程度の時間軸しかないと考えられています。
私たちは高度に進化したはずの動物です……。しっかり歴史を知り、将来を見通し、
現在を熟考する人、国、世界を築いていかなければなりません。そのことは、きっと
先述のようにみんな地球を守り、他者（国）を威嚇するようなことはしない人、国、
世界を作り出すことができると信じています。また、そうした子どもたちになってほ
しいと言う願いを込めて、「対話を通した」異文化間教育を進めていきたいという気概
の現れでもあります。

さて、本日、二学期の終業式を終えました。二学期は、最も長い学期で、学校行事
による活動も多くありました。学校行事における活動では、教科学習で得た知識と技
術の智恵化と技能化を目指し、考える力と活用する力を育むチャンスと考えています。
明日から冬休みですが、今年は18日間もあります。子どもたちには、自分の部屋や勉
強机の整理整頓、掃除などをさせ、楽しいクリスマスや心新たに新年を迎える心構え
のご指導と、夕刻は早く暗くなってしまうので、昨今の社会事情を鑑み、早めの
帰宅と遅くなる時には人通りのある明るい通りを通るようにご指導願います。

時節柄、ノロウイルスやインフルエンザが流行ってきました。しかし、戸外で思い
っきり体を動かしてそうしたウイルスにも打ち勝つ体力を育てて頂き、帰宅時や食前
にはうがいと手洗いを励行し、元気で楽しい冬休みにして頂きたいと思っています。
そして、ご家族皆さままでお健やかな新年をお迎え下さい。今年一年、学校運営にご理
解、ご協力を頂きまして、誠にありがとうございました。

来る年が今年以上に素晴らしい年であります様、心よりお祈り申し上げます。